親子遊びの会

宇都宮共和大学　子ども生活学部
菊地葵　大友歩未
髙橋のりか　海野史帆

発表の流れ・目次

１．親子遊びの会の意義と目的
２．親子遊びの会の活動と2023年度の活動方針
３．本事業の取り組み
４．これまでの活動報告
５．気づきおよび今後の課題

親子遊びの会とは

- 参加者は、**地域の子育て家庭**であり、子どもの年齢は主に0歳～6歳としている。
- 活動は、親子で過ごす時間、保護者と教員の懇談、子どもの遊びの時間で構成される。
- 学生は、**自主的に参加している1年生～4年生**である。
- 学生は、親子で過ごす時間には活動のテーマを設け、**活動の計画と準備、当日の運営、遊びの支援**を行う。

親子遊びの会の意義と目的

子育て支援
研究センター

親子遊びの会

子どもの遊びの支援
親子関係の支援
子ども・家族同士の繋がり作り支援

教員のサポートのもと、学生スタッフが主体的に運営に携わり、子どもと子どもと保護者への関与も経験できることで、学生の保育実践力やコミュニケーション能力などの養成に繋げることが可能

昨年までの活動例

ミニミニアスレチック

忍者ごっこ

お正月遊び

親子リトミック

2023年度の活動方針

- 2023年度は、新たな活動目標を『地域・人との繋がり』をテーマに、地域の子育て支援団体・サークルなどとも連携し、地域の子育て支援ニーズを掘り起こしつつ、本学が地域の子育て支援の拠点のひとつとして役割機能を充実せることを目指す。
- 地域連携を通して新たなネットワークを構築し、地域との関係を強化することで、栃木県の「笑顔輝く子ども・子育て支援プロジェクト」の一助になるものと期待できる。

本事業の取り組み

今年度の活動テーマ　『地域・人との繋がり』

宇都宮市内の子育てサークルと連携し、新たな地域ニーズを掘り起こし、子育て支援の活動拠点化を目指して活動する

子育てサークルのひとつ『Kodomomフィットネス』『とちぎ多胎ネット』と連携し、親子が主体的に参加し楽しめることを目標として、保護者の方と情報交換し、共同イベントを開催する。

2023年度の活動計画

1	5/13	親子イベント「ぐりとぐらのおひっこし」
2	8/19	「親子遊びの会」「とちぎ多胎ネット」 共同研修会
3	11/4	親子イベント「親子フィットネス」
4	12/3	親子イベント「お正月遊び」

2023年度の前半の活動実績

1.　5月　ぐりとぐらの
おひっこし

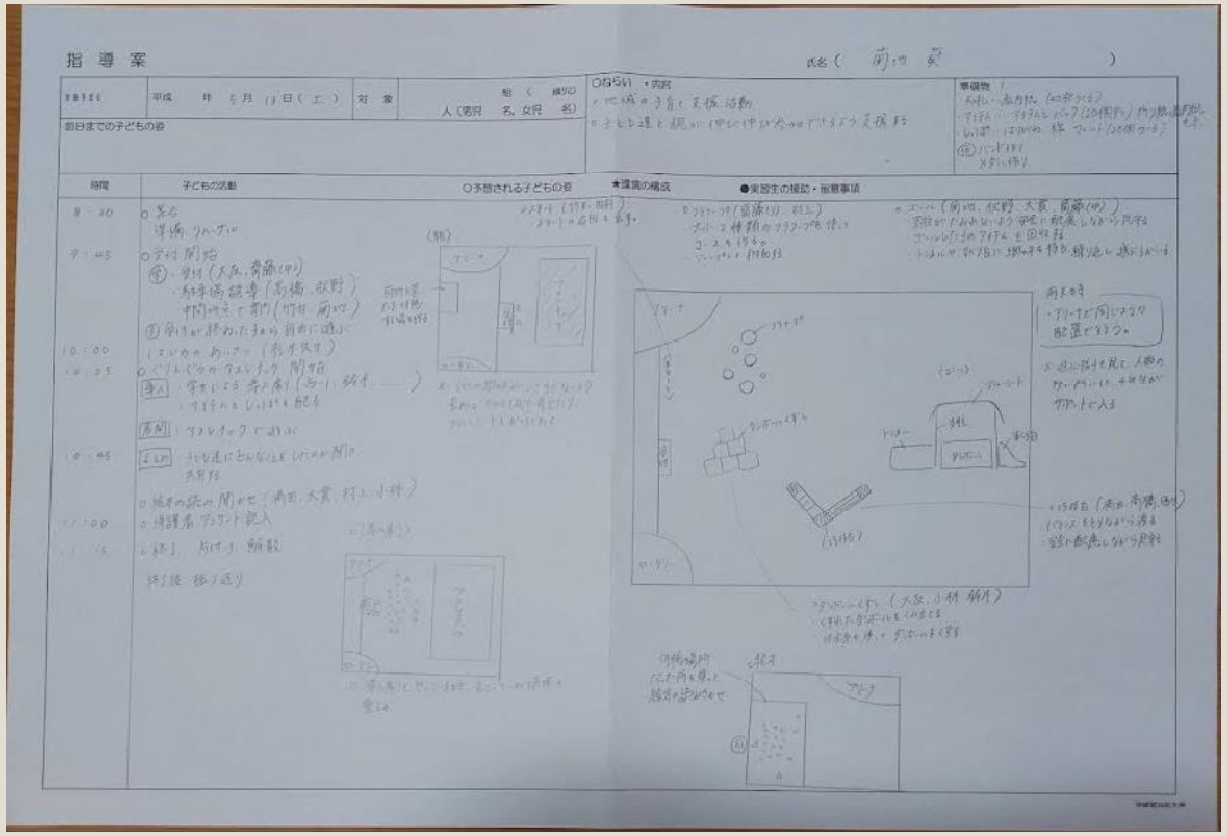
2.　８月　とちぎ多胎ネットとの
共同研修

１．５月13日
イベント「ぐりとぐらのアスレチック」実施

室内でも体を伸び伸びと動かすことができるアスレチックを実現

アスレチック①　前日までの準備

昼休みや放課後に計画を立案したり制作物を作りました



アスレチック②　ぐりとぐらに変身

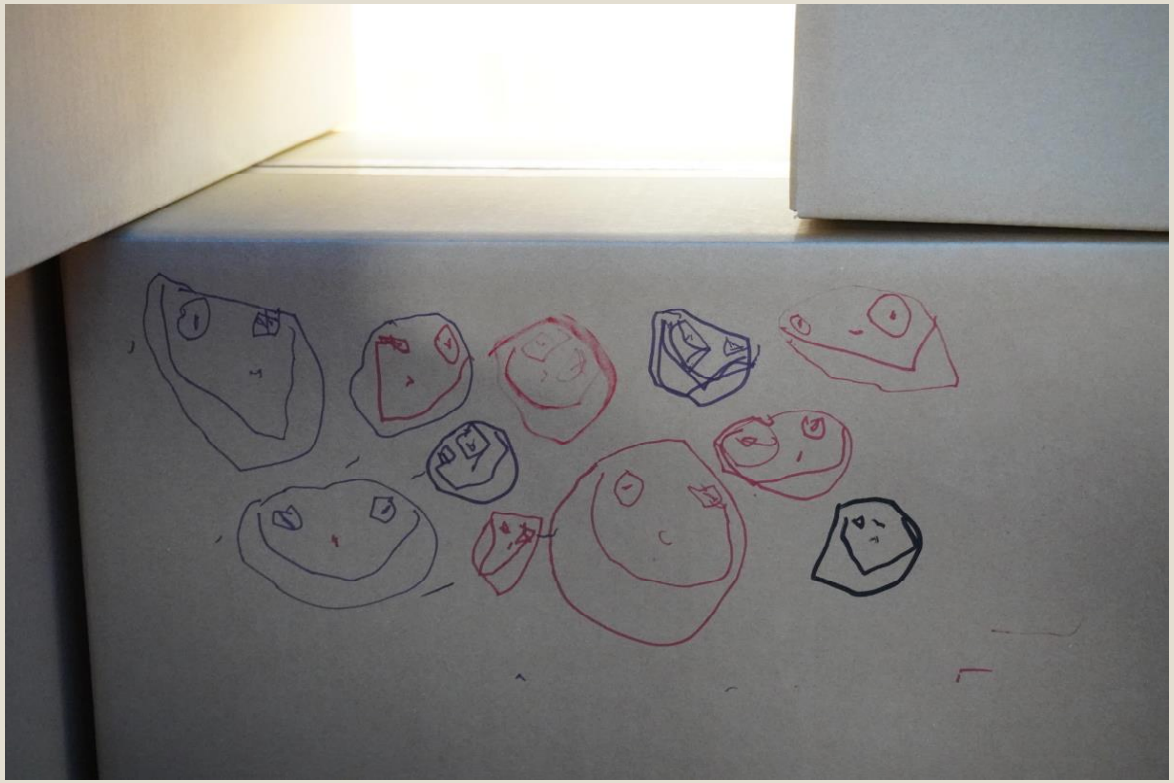
親子一緒に体を動かしてみよう

アスレチック③　体を動かして遊ぶ

一緒に体を動かして遊ぼう

アスレチック④　お絵描きコーナー

自由に絵を描こう



アスレチック⑤　絵本の読み聞かせ

親子で絵本の読み聞かせを楽しもう

２．８月　研修会

「多胎児」の子育て家庭の現状を知り、大学生（保育者）がどのような支援ができるのか、**意義と方法を学ぶ。**

研修会①　子育てサークル勉強会
テーマ『多胎児を育てる親の困難感や子育て支援ニーズについて』

8月19日（土）
講師：とちぎ多胎ネット
　　南部裕子先生、山本緑先生

多胎児の子育ての困難感や保育者としての支援方法、子育てサークルと大学が連携する意義についてお話を伺った。

研修会①　子育てサークル勉強会
テーマ『多胎児を育てる親の困難感や子育て支援ニーズについて』

・日本では現在、年間に出産する女性の100人に1人が多胎児を出産していること、その点を踏まえて多胎児家庭も利用しやすい育児支援が重要であることを学びました。

・今まで一人っ子や、きょうだいのいる子どもとは親子遊びの会での活動で関わることができていたが、多胎児とはあまり関わったことがなかったため、研修を通して多胎児の生活や子育て支援のニーズについて知ることができた。

・これから保育者になってからは子育て支援をしていく立場になるため、多胎児と関わる際に積極的にコミュニケーションを取っていくことで、些細な心境の変化にも気づいていけるようにしていきたいと感じた。

2023年度前半までの活動からの気づき

１．様々な子育て支援の団体やサークルと連携を広げることで、新たな子育て支援のニーズを知ることができる。保育者としても個々の家庭の支援ニーズを知り、具体的な支援方法を考えていくことが求められていることを学べた。

２．遊び活動を企画し、実践していく中で活動方法によって親同士の交流を活性化したり、親子の関わりを広げたりするような効果が得られることに気付いた。

３．この活動を通して、子どもに即して環境構成を新たに創造する力や活動を振り返りながら新たな可能性を検討する力、保護者の想いを理解し支援方法を考える力などが向上したと考える。

今後の課題

１．　地域の親子に寄り添った実践が行えるよう、**子育てサークルとの連携を継続**していく。
２．親子の交流や子ども同士の交流、親同士の交流が活性化できるようなプログラム開発に向けて**学生同士の学び合い**を深めていきたい。
３．子育て支援団体や子育てサークルのネットワークの仲介的な役割を果たせるような方策を検討したい。

ご清聴ありがとうございました。

宇都宮共和大学　親子遊びの会